

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム 幸 りんご	評価実施年月日	平成20年1月12日、1月15日
評価実施構成員氏名	荒井晴高 荒井優子 丸山悦子 牧田京子 竹野淳子 向川雅子 寺内芳美 高塚亮次 小鷹美津子 榑井千賀子 池田笑子 谷川春子 相原早苗		
記録者氏名	高塚亮次	記録年月日	平成20年1月12日、1月15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	<input type="checkbox"/> 「楽しく、愉快地に朗らかに」を掲げ認知症の現状維持のため、毎日の散歩、レクリエーション、機能訓練を継続していくことを大事にするを一番の理想とする。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 理念に沿って毎日のレクリエーション等を欠かさず行っており、全員の参加を目指しているものの、嫌がる人もおられ、完全ではないものの理念の実践に向けて取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 一部参加を嫌がる人に対し、参加をしたくなる内容の工夫をして全員のレクリエーション参加を目指していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 入居の際、家族に理念を含めたホームの説明をしたり、運営推進委員会を通じて理念の説明をし、地域の情報を交換し、理念の浸透を図る。	<input type="checkbox"/> 地域の行事への参加や、ホームでの行事に招いてホームの事を知ってもらう機会を増やし、それらの中で理念を知ってもらう。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	<input type="checkbox"/> ホームの行事に招待したり、近所の人と顔を合わせた時に挨拶をして、少しでも会話をするようにしてつきあいをしていくように努めている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	<input type="checkbox"/> 開設の際に挨拶をするなど交流を図ったが、ホームの行事、業務が増えていく中で交流は少なくなっている。	<input type="checkbox"/> 地域の自治会、老人会などへの参加を進めていけることを目指していく。
6	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かしたという形での地域貢献の機会はこれまでのところ少ない。	<input type="checkbox"/> 町内会を通じて認知症とは何かという説明会(キャラバンメイト)を行って地域に住む高齢者に知識を広めることで貢献していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>評価の意義を説明しているものの、まだ評価を実施していないので、具体的な改善には活かしていない。</p>	<p>○</p> <p>評価を実施次第、その内容を改善に活かしていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>利用者やサービス等の報告しており、また地域の人への報告をしたいと考えたが、委員より基本的なことをもっと押えてからの方が良いのではとの意見があり、そのことを踏まえて業務を行っている。</p>	<p>○</p> <p>委員より地域の行事の情報を聞いてそこに参加することでサービスの向上につなげていきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>食事を業者に任せて調理済みの物を扱っても良いか、またインシュリン注射やストーマの交換など法律に関する内容についてその度に相談をしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>病院から利用者の金銭管理に成年後見制度を利用してはどうかと話があった時に地域包括支援センターにアドバイスをもらって学習をした。</p>	<p>○</p> <p>アドバイスを受けたことについて今後必要な人がいた場合に活用していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>市主催の講演会などに随時参加し、その内容をホーム内の勉強会で話し学んでいる。</p>	<p>○</p> <p>入居者に対しての言葉使いに特に注意を払い、乱暴にならないことを徹底していく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>特に契約の際、重要事項説明書の交付、説明を時間をかけて行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃より入居者との関わりを多く持つようにし、身体的、精神的な訴えについて十分観察したり、生活の不自由な面を聞き、ホーム内に対応できることは対応し、できないことはよく説明し理解して頂く。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時には必ず近況の報告を行い、特に身体的、精神的な面においては、本人、家族、ホーム職員等で話し合い解決方法の糸口を見だせるように努力しています。		金銭管理においては、面会及び入金時、必ず領収書を金銭出納簿とてらしあわせて頂いております。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、ホーム側から改善することはないか等を話しかけ、どんな内容であっても話してくださいという雰囲気作りに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い反映させる努力をしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝のミーティングは毎日、内部研修は1ヶ月に1回行っている。日頃からコミュニケーションをとるよう心がけ、問いかけたり聞き出したりするようにしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	より良い介護をするように3:1を超える職員の確保に努め、要望に柔軟な対応が出来るようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職によって利用者がダメージを受けることを防ぐためハローワークや紹介などで代替りの職員がすぐに入れるようにし、離職に対しては離職の理由を説明し、入居者のダメージのないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ホーム外での講習会などに積極的に参加するようにし、その内容をホーム内での研修という形で伝えるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	小樽市のグループホーム連絡協議会による研修講演会等に参加し質の向上に努めている。他のグループホームへの見学や講演会等にも参加し質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃より職員がどのような気持ちで働いているか会話の中から察知するよう努力している。	
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日頃より、仕事に対して目的意識を持って入居者に接して、将来資格を取るために何をしなければならぬかという自覚を感じてもらう。	○ 1つ1つの介護が入居者に影響を及ぼすのでどのようにしたら、よりよい介護ができるかを考え学習に取り組んでもらう。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームのパンフレットを中心に書いてある事柄について1つ1つ説明し、理解してもらうように努めている。入居に関しては必ず本人に会ってホームの生活を説明し、不安があれば安心してホームに入居できるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームでの生活について説明し、質問をしてもらってそれに丁寧に答えることで不安をなくしてもらう。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>25 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>相談を受けた時、本人の一番適した介護は何かを考え、一方的にホームに勧めるのではなく、他の施設、サービスの利用も含めてアドバイスしている。</p>		
<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>26 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>体験入居や昼間だけ利用して頂き、ホームに馴染んでもらうとともに入居してからも一週間程度は様子を見て、無理なサービスをしないように心がけている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>27 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>1日を通じ、出来る限り関わりを持ち、何気ない会話の中から入居者の持っている不安、悲しみ、悩み等を察知することに努め、傾聴することを主とし、本人が方向付けできる関係を重視する。</p>	○	
<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>28 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>本人を中心として、生活状況を家族に説明することによって、共に安心、安全に本人が暮らしていく方向付けが出来るように家族と共に努力していく。</p>		
<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>29 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>認知症は、1つの病気であると家族に理解して頂き、本人の真の姿でないことを再三説明することにより、本人の気持ちを別の角度から見て頂くことにより、その行動が何を意味しているかという事を、家族と共に感じとるよう努力している。</p>		
<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>30 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>友人や知人が訪ねてきたり電話をしてきた時には、積極的に本人の理解を得て電話等に出て頂いております。手紙等にも是非返事を書いてもらえるようアドバイスをしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食堂で一人に話しかけるのではなく、グループ共通の話題を見つけ、共に話し合える場を作っている。(回想療法など)		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約を終了する場合でも、本人、ご家族に近くに来た場合は立ち寄って下さいと話しかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にホームでの生活はどのようにしたいかを尋ね、希望意向に沿うような生活が出来るよう努めている。本人の意向に沿えない場合でもお互いの考えの接点をみつけられるように努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には必ずサービスを利用するまでの経過を聞かせて頂き、不十分な点は日頃の会話の中から差し障りのないよう聞かせて頂いている。(夫婦、家族、仕事の話等)		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一人ひとりの生活リズムを把握し、その個人に合った生活をして頂けるように、身体的にも精神的にも援助できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	24時間の出来事を、朝の申し送りの時に発表し、その中でその人の課題は何かと云うことを介護計画に立案し、サービスにおける具体的な内容を常に検討している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	毎日のミーティングで起きたことなどの情報を職員で共有し、必要なことは家族や本人に連絡して介護計画に取り入れている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個々の介護記録を用意し、自立できるように実践を行っております。内容としては、ADL、IADL、QOL等の記録を行い、介助が必要な面は職員間の情報共有を行い、介護計画を立て、実践しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	日常生活における食事、入浴、排泄等の介護を通じ、24時間健康管理(バイタルサイン、水分補給処置)をし自主サービスとして病院などの輸送(受診及び付き添い、薬を取りに行く)などの支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が地域で安心して暮らせるように、運営推進委員会議を通じ、町内会長、民生委員の人達の力を借りて、支援している。時にはボランティアの方によるカラオケ、又季節における行事(ひな祭り等)に出て頂いている。消防訓練、文化祭に参加している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	希望者を集い温泉に行ったり、町内のお祭り見学をしたりしております。また本人の希望に応じて訪問理容美容を行っております。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	金銭管理等の後見人になって頂けるためにはどうすれば良いかを相談しました。入居者の保護手続き、入所退居についての相談を受けました。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43</p> <p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人のかかりつけ医を中心とし、専門病院を早期に受診するよう心がけ入院等が必要な場合は本人家族の了承を得て早期に受診するよう心がけております。その為にもかかりつけの医師とよく相談しております。</p>		
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>当ホームにおいては、精神・神経科の医師及び脳外科の医師等を通じ、MRI、問診、長谷川式検査等をして頂いて少しでも認知症が改善するように努めております。</p>		
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>当ホームでは3人の看護師が常勤しており、特に精神科看護においては長年の経験及び認知症の看護においても適確な判断が出来るように介護者等の情報を得て介護しております。現在2名の看護師が24時間待機しており、救急で対応を迅速に行っております。</p>		
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>早期退院のためには早期発見、早期入院に努め、入院となった場合、その必要性を医師よりわかりやすく本人家族に説明して頂けるように話しかけ、又分からない点があれば相談にのって頂けるような体制作りにも努めております。</p>		
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合や、終末期の対応においてはできるだけ早期に本人家族と話し合い、対応の方針を決めております。</p>		
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>当ホームにおいては、重度化した場合(脳梗塞、心不全)すぐに対応して頂けるよう医療機関とも密に連絡を図り、対応しております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>他の事業所に移る時、事業所により、施設長又はケアマネージャー等に当グループホームに来ていただき、施設の説明、特徴、生活等を本人、家族によく理解して頂ける様をお願いしております。本人のアセスメントケアプラン、支援状況等の説明を行い、きめ細かい連携を心がけております。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>朝の申し送り、及びミーティング時に職員の意識向上を図る為、介護記録の言葉づかい、内容等についてよく検討し具体的に実行出来る様に話し合っております。言葉づかいには特に注意し、命令調や決め付けるような言葉を慎む様互いに努力しております。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>利用者が楽しい生活が出来るように、ホームの理念として楽しく愉快地にほがらかに、を掲げ利用者の希望や自己決定が出来る様な雰囲気を作り努めております。本人の希望は些細なことであっても耳を傾け、どうしたら実行出来るか話し合っております。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ホームでの規則は出来る限り少なく最少限度とし、個々の入居者の生活史にそった日々が送れるように努めております。一人ひとりの体調に配慮しできるだけその人に合った支援を行える様に努めております。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>服装においては、本人の自由意志にまかせ、美容においては本人の希望するお店に行っております。髪型等においては本人の希望を尊重しております。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>自立支援を目的としたお米を研ぐ事や、後片付けテーブル拭き、もやしの芽とり等、本人が手伝った、作ったという実感が持てる様に雰囲気作りに努めております。手伝って頂いた時には、入居者全員に食事の時に発表し喜んで頂いております。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	当ホームにおいては嗜好品においては家族面会時持参いただき、居室及びオヤツの時間に食べていただいております。タバコにおいては食堂に換気をもうけ職員が見守りして吸って頂いております。		時々食事のときに食べたいものはありませんか、いつでもいいから申し出てくださいと話しかけております。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	失禁者に対して、時間や習慣を把握し、トイレ誘導をする事でトイレでの排泄を促している。失禁の少ない入居者に対しては、出来るだけ紙おむつを使用せず声かけにて誘導しています。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴時、及び時間は一応定めておりますが、本人が希望する日があればその日に合わせて入浴をしていただく様努めております。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の生活習慣に合わせて自由な生活をしていただいております。しかし、昼と夜が逆転しないよう毎日体操、パワーリハビリ、及びレクリエーション行い、気持ち良い身体状況から安眠できる様努めております。		就寝時間は特にもうけておりません。入居者が自主的に食堂より居室に戻られ、入眠されます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	1日における入居者との関わりを出来るだけ多く取る様に心がけ個人の関心ごとと心を傾け楽しくゆかいに1日を過ごせる様支援しております。又、地域の祭りや温泉等に行っていただき楽しんでいただいております。		天気の良い日は かならず庭の散歩、住宅周囲の散歩をして頂き、気晴らしに努めております。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当ホームにおいては個の金銭管理はむづかしいが外出時その人に合ったお金を所持して頂き、自由に買い物していただいております。又、支払い等においてはほとんど見守りで行っております。		レジャーにおいて支払いの方法が出来ない方においてヘルパーが財布の中から必要な金額を出して本人に渡し、支払をしていただくようにしております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天気の良い日は庭に散歩に出かけたり、ホームの周囲を散歩に出かけております。時には本人の希望を聞いて駅前周辺に買い物に出かけたり、スーパーに出かけたりして気分転換を図っております。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節ごとに近くの公園等にみんなでドライブに出かけたり、本人の希望でお寺へ行ってもらったりしています。	○	今年は積極的に川や海に出かけて楽しい思い出をたくさん作りたいと思っています。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や友人に電話を希望される時はホーム側からかけてあげたり、かけ方を教えてあげたりしています。会話においてはプライバシーに配慮するために居室にて一人で話していただいております。	○	レクリエーションの時に家族及び友人に便りをしませんかと声かけ、希望があれば積極的に支援をしていきたいと思っています。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間は特に定めず、家族、友人、知人の方に自由に面会して頂いております。日中においてはお茶などの用意をさせて頂いております。人数が多い場合は和室等を使っていただき、日本的雰囲気味わって頂いております。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には身体拘束を行わないことを原則とし、特に転倒防止に注意を払い、業務をしながらもいつでも対応見守りできる様な体制が作れるように、朝のミーティングで話し合い、実践に向けての支援をできる様に努めております。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全ての居室には鍵を使用せず利用者が外出を訴えることなく玄関前に待期された時、素早くそれを察知して理由を聞き、外出のための時間を設けるので待つほしいということを理解して頂けるよう努めています。	○	本人がどうしても外出したい場合、一緒について行く様にする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	業務を行いながらも利用者の所在や動きには十分注意を払い、特にふらつき等のある利用者に対しては転倒しないように見守っております。夜間においては事務所より全居室が見える状態にあるので、わずかな音に対しても敏速に対応する事ができます。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全ての入居者に一律に事業所が管理するのではなく、個々の能力理解に応じ、本人が必要および管理したいという希望があればそれに応じています。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	利用者の状況に応じ危険を検討し、事故を未然に防ぐための工夫に取り組んでいる。例えば誤嚥の方には食事の工夫をしたり、常に見守りを行い、一度に食べるものないように説明したり服用においては朝標語を全員で読み上げています。	○	ヒヤリハットは、事故防止につながるものであれば、小さなものでも記録し、朝のミーティングで話し合い大きな事故にならないようにしています。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	現在看護師2名が24時間対応し早期発見に努めております。そのために全職員に介護知識ばかりでなく、看護及び応急手当の知識を視野に入れて朝のミーティングの時に指導している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の消防訓練、避難訓練を行い、また日中、夜間の災害時のマニュアルを作成して対応している。消防訓練では消防署の協力を得て指導して頂いている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	利用者のリスクが発生した場合、まず、ご家族に状況を説明し理解して頂けるようにしております。また解決方法においては、本人、家族、ホーム側とよく話し合いその解決方法の糸口を見出すよう努めております。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	各利用者においてバイタルサインを測定し、同時に顔色、表情、動き、言葉の変調等に対し観察し、本人の意識を見逃す事無く変だと感じた時には速やかに看護師に報告するよう努めております。対応においては速やかに家族及びかかり医師に相談し手遅れにならないよう努めております。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の文献は個人の介護記録にファイルし、いつでも内容が把握できるよう努めており、また、薬の増量及び変更についてはカードックスに記録し、朝のミーティングの時に確認し変化が生じた場合看護師に報告すると共に記録に残すようにしております。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かさず働きかけに取り組んでいる。	当ホームは精神科からの入居が多く、向精神薬に依存している場合が多く、そのため便秘がちになる場合が非常に多い。常に医師に報告し、下剤、浣腸等のコントロールを行っております。また日頃より散歩、パワーリハを用い自然排便ができるよう取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	高齢者においては誤嚥性肺炎の原因は食物残渣が口に残っているためであることを再三説明し、食後は必ず歯磨きをするよう指導及び援助を行っております。就寝前にも義歯の洗浄を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	当ホームにおいては栄養士付の業者と提携し1日1600Kcalの食事を提供しております。栄養のバランス等においては偏る事無く経過しております。食事のバランスにおいては利用者の意見を取り入れています。水分確保についてはチェック表を設け個々にあった水分量を確保するよう努めております。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザにおいては利用者、職員全員が予防接種を行い、ノロウイルスにおいては手洗い(食事前、トイレ後)を必ず行うよう見守り強化に努めております。またペーパータオルを使用しています。他のことについては勉強会を開くなどしております。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板やふきん等は、毎晩キッチンハイター 5Lの水に50mlを使用し2時間以上ひたし、毎晩漂白し、清潔を保っています。冷蔵庫は毎日点検し掃除し、一日の食材の残りは鮮度や状態を確認し、一日分は使い切る様にしています。(業者が二日分の食材を持ってきます。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	冬季には玄関にイルミネーションを飾り、道を行く人やバスの中から見ていただけるようにしております。夏の暑い日や冬の雪降る日などはホールに入ってもらい、夏は涼んでいただけるようにしております。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空間として食堂があり、食堂より台所が見えます。朝、昼、夜ごはんの炊ける匂いや、まな板で食材を切る音を聞きながら家庭的な雰囲気を感じていただいております。ベランダより花壇や畑など見る事が出来、又庭の風景は緑を楽しむ事ができます。一階には和室があり、床の間もあり、日本調の空間も楽しんでおられます。	○ 庭には池があり、金魚をはなし目の保養に役立ちたいと思っております。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	二階の食堂の一角にソファを置いてゆったり一人でくつろげる場所をもうけております。又、食堂の椅子はキャスター付きで自由に移動できゆったりくつろげる様になっています。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には家庭より写真や馴染んだ飾り物を持って来てその人らしい部屋をつくり、又、中には仏壇をもって来られ先祖を敬ってられる方もおられます。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各部屋には24時間自動換気扇があり臭いや空気よどみがない様になっております。冬季においては3時間毎に室温と湿度をチェックしております。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	流し台は車いすにのった人でも不自由なく手を洗える高さになっております。又、流し台は一つ一つのシンクではなく一つの流し台になっており、ハンカチやタオルなどが洗える様になっております。トイレ浴室は手すりがついております。又、階段はなだらかな作りになっており各段が色別になっており安全につとめております。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>部屋をまちがわない様にドアの前には本人の写真を飾りわかりやすい様にしており ます。トイレの入り口はわかりやすく表示してあります。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>廊下の壁を利用して絵画を飾り目の保養に役立つ、又、レクリエーションに利用者さん が作った物を展示し楽しんでおります。庭に花を植えたり、畑に季節の野菜を作り 収穫する喜びを味わっていただいております。</p>		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<ul style="list-style-type: none"> ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホーム幸は「明るく愉快地に楽しく」をモットーとし、家庭的雰囲気築きたいと努めております。また、安心、安全、健康に有意し、病気に対し早期発見に努め看護の面からも努力しております。午後1:45より毎日 継続的にラジオ体操から開始、レクリエーション、技能訓練、パワリハビリ、運動、冬期は廊下を歩いたり階段を昇り降りる運動(ある程度できる方)をしたり春から秋にかけては庭の散歩に力を入れ、元気な方は町を散歩に出かけたりしております。